



関田寛雄（せきた・ひろお）

1928年、福岡県北九州市に生まれる。青山学院大学大学院、マコーミック神学校、アンドヴァー・ニュートン神学校卒業後、青山学院大学文学部教授、日本基督教団桜本教会および川崎戸手教会牧師を経て、現在、日本基督教団神奈川教区巡回教師、青山学院大学名誉教授。主な著書『聖書解釈と説教』『われらの信仰』『断片』の神学』（以上、日本キリスト教団出版局）など。

【目次より】

序 「古い」を生きるための黙想

第I部 キリスト教学校人権教育セミナーから

預言者エリヤにおける宗教と国家／この最も小さい者の一人にしたこと／使命に生きるとは「命を使う」こと／あなたの体を献げなさい／他

第II部 今日における宣教の課題

「和解の務め」に生きること／アダムとエバへの贈物／見張りの務め／他

第III部 説教者として生きる

説教とわたし／説教的循環を生きる／暗黒の中の光／光の証人／他

講演・論考・説教
関田寛雄著

モーセのごとく使命に生きる信仰

著者は牧師として常に差別される人たちに寄り添いながら教会を形成し、実践神学者・教育者として多くの説教者・牧会者の育成に努めてきた。本書は、1977年のヨハネ福音書1章に関する講解説教から、2019年のキリスト教学校人権教育セミナーでのアブラハムの生涯に関する主題講演まで、40余年の間に語られた47編の講演・論考・説教を収録。93歳になる著者を現役の牧会者・説教者・神学者として生かすしめる福音の核心を、余すところなく伝える。

7月26日発売

◆四六判・320頁・定価2200円

目はかすまず 気力は失せず

テモテ・テトス・ファイルモン書

7月26日発売

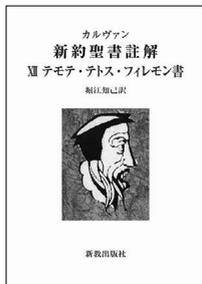
カルヴァン新約聖書註解Ⅻ

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳 改革者の聖書釈義の真髓

教会書簡（テモテⅠ・Ⅱ、テトス）およびファイルモン書の4つの書簡の註解を収める。いづれも1550年前後の作品。長老や監督など初代教会の職制に関するカルヴァンの読み解きは驚くほど自由で興味深い。

*愛書家およびこのシリーズを上製函入で愛蔵している読者のために、上製函入版を限定100部制作。詳しくは専門書店に。

◆A5判・並製・338頁・定価4730円
◆A5判・上製・338頁・定価6380円



既刊 ピリピ・コロサイ・テサロニケ書（オンデマンド）波木居・蛭沼訳 ◆A5判・並製・定価4180円
既刊 ペテロ・ユダ書・ヨハネ書簡（オンデマンド）乾・久米訳 ◆A5判・並製・定価4400円

7月の重版

共に生きる生活（ハンデイ版） D・ボンヘツファー著／森野善右衛門訳 ◆小B6判・定価1760円
汝の敵を愛せよ M・L・キング著／蓮見博昭訳 ◆B6判・定価1870円
悲しみをみつめて C・S・ルイス著／西村徹訳 ◆四六判・定価2200円
天路歷程 続篇 J・バニヤン著／池谷敏雄訳 ◆B6判・定価1980円

長谷川修一著

遺跡が語る聖書の世界〔仮題〕

聖書の人々はどんな住まいに住み、何を着て装い、いかなる食生活を送っていたのか？ また彼らが使っていた貨幣や暦は？ 戦争ではどんな武器を使っていたのか？ 聖書考古学の第一人者が興味尽きないテーマを楽しく解説。「福音と世界」好評連載の単行本化。

四六判・予価2750円

奥田知志著

コロナの時代に聖書を読む〔仮題〕

2020年のイースター礼拝から始まった「コロナ禍で聖書を読む」連続説教。YouTubeで配信され大きな反響を呼んだ15回の説教を収録。人々の間を分断する大きな壁に、福音の言葉が穴を穿つ。

四六判・予価2310円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルカ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

ジャック・エリユール著／新教出版社編集部訳

アナキズムとキリスト教

キリスト教信仰の立場から鋭利な技術社会批判を行った著者の、晩年の最重要著作。「人間性を擁護する唯一にして最後の防衛手段としてアナキズムを肯定することが必要だ」と主張する。

四六判・予価2750円

● 6月に出た本と雑誌

100年前のパンデミック

日本のキリスト教はスペイン風邪とどう向き合ったか
富坂キリスト教センター編



各教派や学校の機関紙誌、教界指導者の日記等を徹底的に読み込み、当時のキリスト者がスペイン風邪をどのように考えていたか、また教会としていかなる取り組みをしていたかを探る。巻末資料は当時の

資料からの詳細な抜粋一覧。感染症対策の専門家である堀成美氏の5編のコラムを付す。歴史の欠落を埋める貴重な共同研究。

◆ A5判・定価1650円

〔重版〕

誰にも言わないと言ったけれど

黒人神学と私

ジェイムズ・H・コーン著／榎本空訳 ◆定価3300円

福音と世界

◆定価6600円

7月号 精神と権力

寄稿者：小泉義之、松田博、渡辺翔平、辰己一輝、松本麻里、高橋淳敏、渡邊太／臼井一美／田崎英明、勝村弘也、有住航、栗田隆子、金迅野、土井健司、好井裕明、辻学

●新紙幣の絵柄に採用されるため、その名を目にする機会が増えた渋沢栄一ですが、彼が設立した会社のひとつに田園都市株式会社があります。イギリス・レッチワースに代表される田園都市——産業都市の諸問題を解決すべく都市と農村を「結婚」させる——を日本に建設しようとした同社が、その後いかに風景を塗り替えていったのかは、現在の東京・田園調布をはじめとする東急沿線のありようからうかがい知ることが出来ます。重要なのは、当初の田園都市とは一種のスピリチュアルな構想でもあったということです。その提唱者エベネザー・ハワードがインスパイアされたのは、キリスト教的・社会主義的価値観に基づくエドワード・ベラミーのユートピア小説『顧みれば』。また、当時隆盛していた心靈主義・神智学からも影響を受けていたといえます。であれば、ハワードの『明日の田園都市』の随所に見られる宗教的表現は単なる修辭以上の意味をもつでしょう。科学と自然、物質と精神、全体と個が調和した宗教的共同体を近代都市へと受肉させる、それがハワードの田園都市計画だったとはいえないでしょうか。翻って現在、東急沿線の開発計画から感じられるのは、人・モノ・情報の途切れなきフロ

ーへと一切を組みこもうとする強い意志です。それらをハワードのビジョンと容易に同一視することはできませんが、林立する高層複合施設からさまざまなモノをインターネットに接続していく「スマート」を見渡すとき、そこには別の仕方での「調和」が実現されつつあるように思えてなりません。これらの評価は、紛れもなく神学的な課題であるはずで（堀）●申命記は、モーセが一二〇歳で死んだとき、目はかすまず気力は失せていなかったと記しています。モーセは超人だったのか？ 決してそんなことはないでしょう。彼とて迷うこともあれば弱ることもある人間であり、目前にした約束の地にも入れず、いわば志半ばにして倒れた無数の人々の一人でした。目はかすまず云々は彼の超人ぶりの記述ではなく、信仰者の実存形式の比喩と理解すべきです。今月刊行を準備している関田寛雄先生は、いま週三日透析を受けておられます。目はかすみ気力が弱ることもあるでしょう。しかし、いかなる人も神との関係においては卒業も引退もない、言いかえれば、神は全ての人を最後まで決して捨て給わず、その人にしか為しえない使命を必ず与えておられる。そのような信仰を先生の文章から教えられます。（小林）

福音と世界

2021年
8

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円
特集：生きるためのフェミニズム2
——何に抗するか

99%のためのフェミニズムと私たち―菊地夏野
身体・領土の潜勢力―五月広場の母たちから
林みどり
Nina Menosへ
国家と市場に期待され／狙われる私（の身体）
大橋由香子
近代スポーツと科学、性別
井谷聡子
ジェントリフィケーションに対抗するフェミニスト・
アクティヴィズム―ロンドンにおける多様な
実践から
村上潔

祈りという非力な抵抗について

——ミヤマーを覚える祈り会 渡邊さゆり

【書評】山下壮起・二本信（編）

『ヒップホップ・アナムネーシス』金 在源

【注目の連載から】

- ◆ 間隙を思考する 非同時代性のために 5… 田崎英明
- ◆ 古代イスラエル文学史序説 6… 勝村弘也
- ◆ 霊性のエロジー あるいはアマミテリアア村澤真保呂
- ◆ Saw a Little Prayer 開かれる世界 17… 栗田隆子
- ◆ 今を生きることは 17… 金 迅野
- ◆ 新約釈義 第三モテ書 17… 辻 学
- ◆ くまさんのシネマめぐり 20… 好井裕明
- ◆ 教文学入門 23… 土井健司